

(4) 第2-B分科会議

- 司 会：釜山広域市政策開発室 申星教博士
- 議 長：日本 福岡市 山崎広太郎市長
- 参加都市：大連、福岡、ホノルル、北九州、
クアラルンプール、大分、ウルムチ(7都市)

☆☆ 司 会 ☆☆☆

第2-B分科会の主題は、「観光産業の育成案」で、大連、福岡、ホノルル、北九州、クアラルンプール、大分、ウルムチ、以上7都市の代表者が参加して下さいました。

次は、本分科会の座長選出についてです。アジア・太平洋都市サミット事務局で事前に協議した結果、福岡市長が座長を勤めて下さると承諾して下さいました。異議がないようでしたら、拍手で歓迎して下さい。

福岡市長、お願いいたします。

では、山崎広太郎福岡市長、お願いします。

□ 座 長

皆様、おはようございます。福岡市長の山崎でございます。座長の役を勤めさせていただきます。この会議が円滑に進行されますように皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。この分科会の議論が、アジア・太平洋地域の都市の問題の解決、また、都市の発展につながる事を期待します。では、はじめに参加者の紹介を行います。恐れ入りますが、私の右の隣の大連市から簡単に自己紹介をお願いします。

***** 参加者自己紹介 *****

□ 座 長

ただ今より、福岡市を含めて7都市で色々討議を行いたいと思います。会議が非常にスムーズに進んでいるようでございます。早速、各都市の事例発表に入らせて頂きたい思います。

運営の都合上、福岡市から発表させていただきます。その後、アルファベット順に発表をお願いします。このお席の順でございます。発表についての質問等は、発表が終わった後自由討議の時間がございますので、その際に質問なり意見なり頂きたいと思います。では、福岡市の観光産業について発表致します。

[福岡市]

○ 市長 山崎広太郎

今回で第4回のアジア・太平洋都市サミットでございます。私の前任者の市長の提案でこのアジア・太平洋都市サミットが生まれたと聞いておりますが、私は市長に就任して1年半しか経っていません。従いまして、この都市サミットに参加するのは今回が初めてです。

この会議には、日本の九州の全ての主要都市が参加しております。九州は、人口1500万名の地域です。九州は、長い歴史を持ち、地理的にもアジア・太平洋地域に近いので、アジア・太平洋地域に強い親近感を持ったエリアです。九州がアジア・太平洋の諸都市と日本の他の地域との架け橋役を務めることは、自然なことであり、大変意義あることだと考えております。日本国内でも九州は、「アジア・太平洋と一体化して発展する地域」という風に新しい全国の総合計画の中で明確に位置付けられている地域でございます。

九州は、観光面でも大変魅力のある地域です。各地に温泉が沢山ございます。また、世界一のカルデラを持つ雄大な阿蘇をはじめ活火山が点在している大変魅力のある地域です。また、有田の陶器など、魅力のある物産を多く抱えている地域でございます。

今後、私共はこういう機会を通じて、九州の一体的な観光開発を行っていきたいと思っております。また、国際的な観光ルートも色々と模索を続けて参りましたが、この釜山市と福岡市は、行政交流都市という関係を結んでおりまして、経済面を含めてあらゆる面で提携を深めています。観光面でも、今年から釜山市と福岡市との共同パンフレットを作り、今年、2000年は東京で釜山と福岡市の宣伝を行い、来年の2001年には、ソウルで福岡と釜山の一体的な観光ルートの宣伝を行うという計画を持っています。こういう事が効果があれば、各々の地域への拡大を図っていく考えでございます。

今、福岡市の全体図がスライドに写っております。少し暗いのであまり写りはよくありませんけれども。

福岡市の観光について今から説明をさせていただきます。

香港で発行されております、アジアの中ではかなり評価の高いアジアウィーク誌という雑誌がございますが、その中でアジアの主要都市40都市を上げて、色々な要素を分析してランク付けをしております。そこで福岡市は、アジアで最も住みよい都市という評価を頂いております。1997年に第1位、1998年に第2位、1999年に第1位に選ばれております。そういう国際的な評価を今や福岡市もいただいているということです。

福岡市は、人口が130万人、福岡の都市圏を含めると、220万人の人口を擁しております。福岡の産業構成は、9割りが第三次産業で、主に、商業、流通業で成り立っている都市です。また、海岸線が美しく山があり、自然景観に大変恵まれた都市でございますと同時に、2000年の

アジア地域との交流の歴史を持った街でございます。かつては、正に日本とアジア地域とのゲートウェイの役割を果たした都市でございます。

ここ近年、都市型の施設が充実して参りました。様々な商業施設が生まれております。また、ウォーターフロントの開発を手がけて参りました。それから、日本一の大きさを誇る、開閉式の屋根のドームスタジアムを民間が持っておりますが、このドーム球場は、日本のプロ野球チームのフランチャイズを持っております、このプロ野球チームが、昨年は、日本一になりました。また、屋台が沢山ありまして、市民の皆様や観光客の皆様に大変親しまれている手頃な安いレストランです。また、国際的なコンベンションや見本市の開催、或いは国際的なスポーツ大会の誘致・開催も行っております。1995年ユニバシアード福岡大会を行いました。1997年ADBアジア開発銀行総会を行いました。また、2000年福岡沖縄サミットの蔵相会合が今年の7月に行われます。また、来年2001年、第9回世界水泳選手権大会、これは、前回は、オーストラリアのパースで行われた大会でございますが、来年の2001年は、福岡で行われます。それから、国際見本市も年々充実して来ておまして、2年に一度開催をしております。

私どもは、特にアジアとの関係をここ10年ほど重視して参りました。アジア各国の美術品を紹介するアジア美術展、そして、それを展示するアジア美術館というものを開館致しました。また、アジア各国で活躍している功績のある方を表彰するアジア文化賞も第11回目を迎えております。また、アジア・太平洋の地域の子供達を毎年夏に福岡に招待しておりますけれども、このアジア・太平洋子供会議も今年で12回か13回目になります。毎年9月には、アジアマンスということで、1ヶ月間アジアの様々なものを紹介していく事業を行っております。この中でアジア映画祭も行っております。また、同時に福岡は、2000年のアジアとの関係の歴史を持ち、伝統的な文化を持っていて、しかもそれが今も残っている都市でこれが大切な観光資源となっております。

福岡は2000年の歴史を持つ街で、その遺跡もございます。これは福岡城です。また、これは正福寺でございますが12世紀くらいに建てられた日本で初めての禅宗のお寺です。それから、「博多どんたく」や「博多祇園山笠」のように700年、800年の歴史を持つ祭りがございます。そして、博多織りや博多人形などの伝統工芸もございます。こういう古い伝統的なものも大事にしながら観光振興に役立てていきたいと考えております。

もう一つ福岡の大きな役割は、交通・交流の接点の役割です。一つは、福岡空港で、年間1900万人の利用客がございます。国際線は現在23路線256便、19都市と結ばれております。空の方はそういう状況ですが、また、博多港が貨物だけでなくて旅客の輸送も行っておりまして特に釜山港との定期航路が非常に賑わっております。日本の若い男性や女性がこの釜山に買物にくるということで利用されておまして、今や27万人の利用客がございます。これは、益々拡大す

る方向でございます。最後に福岡市としては、観光に限らず全ての面において九州との一体的な連携を図っていく、或いは、アジアとの連携を図っていききたいとこのように考えております。ご静聴ありがとうございました。

○ 座長

次は、大連市をお願いします。

【大連市】

○ 副市長 李永金

尊敬する代表の皆様、ご列席の皆様。

私は、中国の大連市から薄熙来市長の委託を受けて、このたびの会議に出席させていただきます。

まず、薄熙来市長に代わり、釜山市長をはじめこのたびの会議を組織されたスタッフの皆様
に厚くお礼申し上げます。私ども大連市代表团に対する皆様の歓迎とおもてなしに感謝いた
します。行き届いたお世話により釜山での滞在が大変心地よいものとなっています。

第4回アジア・太平洋都市サミットの席で、各都市の市長の皆様と知り合い、『大連市の観
光育成案』についてご報告できることを光栄に思います。同時に、大連市の観光産業を皆様
にご紹介することにより、各都市間の共同活動と交流が促進されるであろうと信じております。

現在、旅行は現代人に欠かすことのできないものであり、観光産業は世界の多くの国におい
て成長著しい産業であり、輝かしい文化となっていることに私たちは注目しています。同時に
、世界旅行産業会議（WTTC）が1998年に発表した『中国及び香港特別行政区：旅行業の経済
に対する影響』というレポートの中で、中国は21世紀には世界の主要な観光の中心地になるで
あろうと述べられていることにも喜びをもって注目しております。

大連は中国の遼東半島の南端に位置する中国北方の美しい海浜都市であり、大自然と歴史的
文化的観光資源に恵まれています。便利な陸海空の交通、冬暖かく夏涼しい気候、海と山の美
しい空気が、訪れる人々をリフレッシュさせます。昨年、江沢民中国国家主席は、大連市制百
周年に際し「百年の風雨の洗礼により、北方の明珠は輝きを生ず」という言葉を寄せ、大連市
を高く評価いたしました。

大連市政府は、観光産業の発展を非常に重視しており、世界的観光都市の建設を目標に育成
政策を行っています。1993年に薄熙来が市長に就任してからは、観光産業を経済と社会の発展

計画の中に取り込み、努力を続けてきました。1999年に大連市が受け入れた国内外の観光客はのべ2,026万人で、すでに中国有数の観光都市に成長しています。

大連市の観光産業育成策は以下のとおりです。

1. 持続的発展戦略の実施

観光産業と持続的発展との間には、本来相関作用があります。観光産業の発展を促進するために、持続的発展を重視します。

— 「最大より最良を」という都市建設の理念を確定します。本市では、大連の歴史、現状、発展に有利な点や制約、そして国内外の各都市の建設・発展の経験と教訓について、多角的、全般的に分析し研究を行いました。その結果、大連は三方を水に囲まれ、発展の空間が限られているため、都市の規模を盲目的に拡大していくことは不可能であることがわかりました。そのため、市では三つの措置を採りました。それは、都市の人口を抑制して人的素質を高める、建設の規模を抑制して建築水準を高める、産業構造を調整して企業の収益を高めることです。

— 都市計画を調整し、都心にある製造業の事業所を移転改築します。

観光客にとって、都市環境は重要な要素です。近代工業の発展に伴い、都市の汚染は日増しに深刻になっています。1994年から、市では不動産開発ブームという有利な時期をとらえ、都市の用地構造の計画調整を行いました。外資の導入や土地価格差の利用などによって、都心の汚染度が高く収益の悪い中小企業の全面的な移転改築を実施しています。現在、90社の移転が完了し、今年さらに10社が移転いたします。その跡地である150万平方キロは、緑地や第三次産業に転用します。また、都市の観光機能を強化し、都市計画をより科学的・合理的に進め、土地資源についても最適利用を行っていきます。

— 都市の特色を生かします。ここ数年、本市では大連という都市の特色や風格についての探索や実践を重視してきました。建築の計画や設計においては、建築と自然の美を結合させて高低をつくりあげるよう努力し、建築の造形においては、現代欧風を中心とした様々なスタイルを創造し、また、公園緑地の計画・設計においては、芝生を整備する・色別に花を植栽する・樹木をまとめて配置する・造形やデザインを工夫するなどの方法により視野の開けた明るい都市緑地を作り、緑と青空と紺碧の海を有機的に結合させ、特色のある公園都市の風格を形成しています。

2. 緑地開発を進めます。

— 緑化、美化を行います。本市では、1993年から、大連を緑化、美化しようという呼びかけを

行っています。この8年来、市内の全ての公園を改造し、壁や囲いを取り壊して公共緑地を拡張し、180か所におよぶオープンスペースや緑地帯を新たに建設・改造しました。また、市街地には公共緑地 850万平方メートルを新たに増やしました。昨年は、総延長200メートル以上に及ぶ4本の「緑色長竜」建設プロジェクトを実施しました。現在、全市一人あたりの公共緑地は8平方メートル、緑化率は40%以上に達しています。

- 大連を中国一広場の多い都市にします。都市の空間配置をより合理的にするのです。ここ数年、本市では市内の全ての広場を改造し、新たに24の広場を設けました。新設された広場の総面積は、50万4千平方メートル、昨年は、そのうち海之韻、オリンピックなど14の広場を建設しました。また、人民広場、星海葵花広場などの改造を行いました。新設や改造の際には、緑地、彫刻、音楽、噴水などを有機的に結合させ、都市の文化的品格を高めました。
- 都市の汚染対策を行います。市内においては80項目の廃水対策を完了しました。年間で30万トン以上の汚染物質を削減し、汚水処理率は70%に達しました。また、全国に先駆けて、空気汚染予報を開始しました。市内では、ゴミを袋に入れて収集しています。車両の排気ガス汚染対策と騒音の規制も強化しました。さらに、中日環境モデル都市プロジェクトを立ち上げました。
- 昨年、国連の世界ハビタットデー全体記念行事が大連で開催され、薄熙来市長がハビタット名誉功労賞を授与されました。その際、ハビタット事務局長代行のトブファー氏は、「大連は人類の居住環境における模範都市の名に恥じない」と賞賛されました。

3. 観光イベントを展開します。

- 大連アカシア祭り。大連の5月は、鳥歌い花咲き乱れる季節です。特に、街中に溢れるアカシアの白い花の香りが鼻孔をくすぐります。観光客と大連市民に、この大自然の恩寵を楽しんでもらうため、本市では80年代末からアカシア祭りを開催してきました。既に11回を数え、昨年だけでも22の国と地域の6,000名近くの観光客が参加しました。
- 迎春花火爆竹大会。春節（旧正月）は、中国の人々の伝統行事です。1997年より、春節の期間に民族色あふれる花火爆竹大会を催しています。観光客は中国の民俗習慣を鑑賞し、中国人のもてなし好きを体験できます。さらに、花火大会や、田植踊りへの参加、伝統的な軽食を楽しむなどのイベントもあり、毎年、外国領事館員や国内外の観光客が大勢訪れています。
- 大連国際ファッション祭り。観光と商業とが一体化した行政主導の大型イベントで、これまでに11回が成功裏に開催されてきました。IOCのサマランチ会長、ガリ前国連事務総長、アメリカのキッシンジャー元国務長官などの国際的要人も、このイベントに参加するために大連を訪れました。広場で大がかりに開催される文芸の夕べ、華やかなライトの中で世界のトップモデルたちにより繰り広げられるファッションショー、熱狂的なカーニバルパ

レードなど、観光客を飽きさせることはありません。

—「大連ショッピング」イベント。中国北方の重要な商業集散地である大連では、昨年より「冬・夏大連ショッピング」イベントを展開しています。「冬のショッピング」は、チャーター便17便を誘致し、海外観光客3万4千人が訪れました。また、「夏のショッピング」では、海外観光客6万7千人、国内観光客810万人が訪れました。今では、このイベントは大連市の重要イベントに成長しています。

この他、工業ツアー、農業ツアー、文化ツアー、民俗ツアーなど様々な観光プロジェクトも展開されています。

尊敬する代表の皆様、ご列席の皆様、

大連の南の海岸 — 旅順口国家風景区は、風光明媚な場所です。金石灘国家旅遊リゾート区にある金石ゴルフ場は、世界のベスト10に選ばれた7ホールを持つゴルフ場です。星海湾テーマパーク、極地館、聖亜海洋世界、そして森林動物園の第二期工事、日本風情通り、ロシア風景通りなど多くの観光建設プロジェクトが既に全面的に開始されています。

たゆまぬ努力をもってすれば、21世紀において大連は必ずや世界に賛嘆される花園都市、観光都市となるであろうと大連市長は確信しております。

人情味豊かで、もてなし好きの大連市民は、皆様が大連にお見えになり、私たちと共に今日の大連の喜びと繁栄を享受されますことを歓迎いたします。そうなることが私の喜びでもあります。

ありがとうございました。

□ 座 長

ありがとうございます。次は、ホノルル市にお願いします。

[ホノルル市]

□ 経済開発局長 メネンデズ 3世

皆さん、こんにちは。ジェレミー・ヘリス市長の代わりに第4回アジア・太平洋都市サミットに参加し、ワイキキの観光産業復興とオアフ島の観光産業政策について発表しますことを光栄に存じます。

ハワイ諸島で3番目に大きい島であるオアフ島は、世界有数のビーチと自然景観を誇る島です。全長180キロの海岸線のうち、3.2キロがワイキキビーチです。100年前、ワイキキのほとんどは沼沢地でアヒルの飼育場でした。しかし今日では、ハワイの年間700億ドルに及ぶ観光産業

の中心です。観光産業こそが、我がハワイ州経済の最大の構成要素で、ハワイのGDPの30%を占めています。ワイキキは、ジェレミー・ハリス市長はじめ、我々市民が抱く、21世紀のホノルルとオアフ島のビジョンの中での鍵となっています。

ワイキキの住民は20,000人ですが、更に39,000の人々がワイキキを職場としており、観光産業のショー・ケースとなっています。また、娯楽を求めて集まる場であり、世界規模のリゾート地です。ワイキキは、人それぞれが価値を発見する街であり、また、そうした多くの価値を更に高めるよう取り組んでいます。世界の国際観光市場が劇的に増大し、国際的観光地へのアクセスが急速に容易になっている今、ハワイの観光産業の未来は、私たちの多民族構成に由来するハワイの心と魅力を反映したワイキキの再活性化にかかっています。車ではなく、人が通行優先権を持つ街、そして住民と旅行者が共にユニークなハワイを楽しく体験する場所とするのです。市当局は、民間セクターと共に、この目標に向かって積極的に努力しており、この努力の結果はまもなく現れることを確信しご報告申し上げます。

今年の夏、世界各地からの観光客を魅了してきたハワイの復活のために、4,000万ドルを投じる事業を行い、ワイキキに劇的な変化をもたらします。人気のクヒオ・ビーチ拡張のためにカラカウア大通りの車線を1本削り、噴水、鮮やかな花の植物、芝生、何百本ものヤシの木により、クヒオ・ビーチはハワイの遊歩道へと変貌します。最先端技術を取入れた警察署と物販店は、1900年代のノスタルジアを漂わせる建築様式のものとし、フラダンス用の小山が整備されることで、観光客も住民もハワイのショーを浜辺で楽しむことができます。また、遊歩道を歩きながら、地下音響装置からの音楽を楽しむことができます。伝統的なタイマツ点火の儀式は、夜毎のエンターテイメントの幕開けを告知し、人々はハワイ文化に心を奪われるでしょう。

ワイキキ東端のカピオラニ公園では、水蓮池と木蔭豊かな樹木に囲まれた1980年当初のビクトリア朝建築様式の野外音楽堂を建築中です。

1980年代に設置の褐色の街灯は、こぼれる花かごをあしらった昔風の防犯灯と立て替える予定です。世界的に有名なカラカウア通りは、ハワイらしさが漂う美しい海岸線を楽しむ公園のような装いの通りとなるでしょう。

ハワイ州政府は、今年の後半に、ワイキキの北端のアラ・ワイ運河の浚渫工事を行い、市はこの運河と新しいハワイ・コンベンションセンター地域の美化計画の最終段階に入っています。観光客や住民は、ここでカヌーレースやウォーターフロントでの活動を楽しむことができます。

観光地にとって、公衆の安全は重要なものであり、また市民生活の質を左右する中心的要素です。ホノルル市の一貫性のある公共安全計画により、犯罪件数は過去4年間に35%の減少となりました。アメリカ国内の同規模都市の中で最も安全な都市となったのです。この大幅な犯罪数減少は、優れた警察官、防犯カメラなど先端技術装置の活用、市民ボランティア・パト

ール等に与えられた勲章ともいえ、島内全域で、多くの市民が近所のパトロールを行っています。ワイキキでは、アロハ・パトロール、ハワイ観光客アロハ協会(VASH)、日本語が話せるT
PC 100などが、観光客や住民の安全のために重要な役割を果たしています。また、交通量の多い数ヶ所に道案内用のアロハ・キオスクを設置しています。ハリス市長は日本の「交番」制度の成功を見て、「交番」の概念をワイキキに導入しました。

民間部門は、最近通過した税報償制度(tax holiday)を活かして、商業ビルの改修や新築工事を行っています。例えば、来春オープン予定の9,500万ドル規模のヒルトン・ハワイアン・ビレッジ・キャリア・タワーの新築工事、また、ヒルトン・ハワイアン・ビレッジは、ダイヤモンド・ヘッド・タワーの3,500万ドルの改築プロジェクトにも着手しています。デューティー・フリー・ショッピングは、6,500万ドルをかけて1900年代建築様式のガラリアを建設中です。このガラリアでは、昔、観光客がワイキキに船で到着し、また外国の港へと出帆していったノスタルジックな船旅の時代のざわめきを、観光客が体験することができます。そして、ナイキ・タウン拡張のため、現在、1億2,500万ドルをかけてショッピング複合施設を建設中です。

オープン・エアタイプのトロリーが近々導入されます。このことによって、ショッピングとハワイの多様な文化が生み出す料理を楽しむ観光客に、ワイキキからカパフルとカイクキ地区までの楽しい移動手段を提供することができます。

オアフ島の総合的ビジョンにワイキキは不可欠です。このビジョンこそが、経済を再活性化し成長を促すものです。また、このビジョンにより、都市空間を維持し、「田園をして田園たらしめる」ことが可能となります。この努力によって、ホノルル住民の更に良質な生活を実現し、観光客は更に多様なハワイ体験を楽しむことができるようになります。

例えば、現在、私たちの地域社会に役立つ競技場を建設中ですが、この施設を、常夏のハワイでのトレーニングや競技場として、世界中の運動チームに売り込むことが可能となります。ハワイ州は、大型のスポーツ複合施設を、西部平野に位置する第二の都市カポレイに建設する計画です。また、カポレイ市は、近々、329エーカーのサッカー複合競技場を完成する予定で、今年の後半には、中央オアフのワルピオに18面の競技場が出現します。また、カポレイ市は、269エーカーのワイオラ・スポーツ複合施設を、中央オアフに建設中で、世界水準のテニスコート、水泳プール、ソフトボール球場、その他競技用、観戦用の施設も備えられます。

私共は、住民のために休養娯楽地域を整備するところです。これは、観光客にとっても、魅力ある場所となります。リーワード海岸にあるワイアナエでのウレハワ公園計画では、不毛な海岸線を素晴らしい娯楽・休養区域に変え、家族や観光客が楽しめるものとし、伝統的なOR&L列車をそこに走らせようとしています。ホノルル東部では、ハナウマ湾の施設を改修し、湾の自然美を守ろうという計画が進められております。また、この美しい自然を未来世代に残すた

め、観光客が貴重な生態系について学べる海洋教育センターをつくる計画も進められています。きらめく太陽、青空、透明な海を楽しんでいる自分を想像してみてください。浜辺に目を移せば、ハワイアンスタイルの案内所が唯一の建物です。

他にも、島の美しさを映画や娯楽産業を通して売り込むことができます。近年、「ベイウォッチ」などのテレビ番組やディズニーのパール・ハーバーの新作映画、また国際的に知名度の高いミス・ユニバースコンテストなどのイベント等により、何百万ドル規模で経済が潤っています。このような放送・放映の宣伝・広報効果による利益は、一観光地の出費を大きく上回るものです。

更に、アジア・太平洋地域の中央に位置するという地の利も売り込んでいます。近年、ハリス市長は、「アジア・太平洋環境市長サミット」、最初の「中国・アメリカ市長及びビジネスリーダー会議」、「アジア・太平洋環境市長シンポジウム」を組織開催しました。また、ホノルル市は、日米市長及び商工会議所会頭会議も主催してまいりました。このようなプログラムにより、ビジネスや政府の指導的立場の方々をハワイにお招きすることができます。私たちホノルル市は、今回の都市サミットにもご出席の末吉北九州市長と共に、「都市環境情報機構」を設立しているところですが、世界銀行が新しい都市の世紀と予測している21世紀に台頭してくる都市に対して、「最良な都市環境対策事例」や環境技術に関する情報を提供することを目的としています。

私共は、ホノルルを「祭りの都市」として位置付けております。民族的で文化的なイベント、例えば、アロハ・ウィーク・フェスティバル、「祭り・イン・ハワイ」、ドラゴンボートレース、パンロイオ・フェスティバルなどを更に行っていく計画です。また先に述べました新しいカピオラニ野外音楽堂の豪華なオープニングを祝して、アメリカ独立記念日7月4日の週末には、多民族的多面的な、またエンターテインメントに富んだ祭りを、終日行う計画を進めています。ノースショアの地域ハレイワの祭りである「ホラウレア」に関連した計画も進行中です。さらに、今年の夏に新設されるクヒオ・ビーチの浜開き計画も立案中です。

オアフ観光協会がよく言うように、「ビーチはオアフ観光の第1ページ」でしかありません。今後数ヶ月に渡り、ワイキキを、ハワイ観光のショーケースとして再活性化する計画です。私共は、オアフを共同体意識が強い島として、旅行者に多くの目的を持って訪れてもらう島につくり変えています。皆様に、リピーターとしてハワイの独特の風土をご満喫いただきたいと考えております。

発表の機会を与えて下さりありがとうございます。事例発表の後、活発な討議が行われることを期待します。そして、お互い学び合える場となることを希望し、これを通じてこの社会が一層発展することを願います。私たちは、現在デジタル時代に生きていますが、こうして一堂に

会し顔を見合わせながら話合うのは、大事な機会だと思います。ですから、皆様との討議が深度のあるものになることを期待します。ご静聴ありがとうございました。

○ 座長

次は、北九州市、お願いします。

[北九州市]

○ 市長 末吉興一

北九州市について報告させていただきます。スライドを使って発表させていただきます。北九州市は九州の最北端に位置し、本州と九州を結ぶ九州の玄関口です。

本市の面積は約480平方kmで、人口101万1千人を擁する都市です。

また、本市は日本でも有数の工業都市、港湾都市であり、豊かな自然に恵まれた暮らしやすい都市でもあります。スライドをご覧になって下さい。こんなに美しい自然がそのまま保存されています。

本市は、アジア諸国とは大変近い距離にあり、北九州市を中心に円を描いてみますと、釜山と大阪がほぼ同じ距離にあります。ご当地「釜山市」とは直線距離にして約230kmしかありません。

ソウル市、本市の姉妹都市である仁川市からも約500kmという近い距離にあり、中国最大の上海市や本市の友好都市である大連市までの距離をみても約1,000kmで、我が国の首都である東京までの距離と変わりません。

さて、本日の主題である「観光産業の育成」について触れさせていただきます。

一口に観光産業といっても、その範囲は広く、旅行業、宿泊、交通、飲食、物販、アミューズメントなど多くの分野にまたがる複合産業であります。

現在、我が国では多様化した観光客のニーズにこたえるため、日本観光協会を中心として観光情報と地理情報システムを連結した「観光GIS (Global Information System)」の開発に取り組んでいます。これが完成してCD-ROMが実用化されれば、情報産業も観光産業の一部と見ることができます。このように、観光産業とはどのような産業であるという明確な定義はなく、その範囲は拡大していく傾向にあります。

現在、観光産業の規模は世界の雇用及びGDPの約10%を占める巨大産業であると言われていますが、今後益々巨大化していくことになると思います。なお、本市では、宿泊費、飲食費、土産費及び入場料等を観光関連の消費として考えていますが、その合計金額は、本市が統計をとり始めた1988年の約104億円から1998年の約660億円へと大きく増加しています。

ところで、本市が本格的に観光行政に取り組み始めたのは、1980年代の後半からです。当時の本市は、円高不況、構造不況の影響で主力産業の製造業も元気がなく、まさに、沈滞した状況でした。この不況を打開し、市を活性化させるための即効薬として考えたのが、観光、コンベンションの振興でした。

その頃、本市にとっての観光は、他の観光地へ出て行くことであり、外から人を集めて街の活力にしようという「観光マインド」は無きに等しい状況でした。本市にとっての観光は、まさに、ゼロからのスタートであったといっても過言ではありません。

それが約10年後の1998年には、年間観光客数が1千万人を超える観光都市に成長し、観光産業の収入となる観光消費額も先ほど紹介しましたとおり660億円に達するようになりました。これも一重に、民間の方々と一体となって、知恵を絞りながら観光振興に取り組んできた成果であると考えております。

ここで、本市における観光振興の特徴と、成功事例を幾つか紹介させていただきます。

まず第一の特徴は、「企業遊休地」や「歴史的建造物」など社会ストックの有効活用です。本市は、かつて日本の4大工業地帯の一つに数えられ、鉄と石炭の街として日本の発展を支えてきました。しかし、石炭から石油へのエネルギー転換や我が国の産業構造の転換が行われ、企業の合理化や首都圏等への再配置が進み、本市から多くの企業や人が流出しました。その結果として企業遊休地、使われなくなった歴史的な建物等が発生いたしました。わたくしたちはこれらを観光資源として捉えなおし、日本でも有数の観光地として再生させました。その代表的な例がスペースワールドと門司港レトロ地区の建設です。

スペースワールドは、世界初の宇宙をテーマとする大規模テーマパークです。新日本製鉄㈱八幡製鉄所の規模縮小により遊休化した土地のうち33haを、テーマパークとして、1990年に再生させた施設です。

スペースワールドの建設は、都市の活性化やイメージアップなどの大きな効果が期待できるため、本市としても、新会社への出資はもとより、アクセス道路の整備や案内標識の設置、補助金の拠出など、公共投資による環境整備を重点的に取り組みました。

このように、新日本製鉄を始めとする地元企業群と、本市の再開発事業との連携プレーにより完成した本市最大の都市型観光の拠点でもあります。

この土地は、1901年、日本近代産業の幕開けとなった官営八幡製鉄所が操業を開始した所であり、その同じ場所に本市観光産業の幕開けとなるスペースワールドが建設されたことは、誠に感慨無量であります。

このスペースワールドの開園が北九州市及び観光関連産業にもたらした効果は絶大です。スペースワールドが開園した1990年の観光客数は、前年の359万人から一気に40%以上増加して51

0万人となりました。また、観光消費額も、111億円から実に2倍以上の282億円へと急成長しました。

次に門司港レトロ地区を紹介します。

門司港地区は、関門海峡に面し、関門橋やめかり公園など、素晴らしい自然景観を楽しむことができる地域です。また、明治・大正時代から日本有数の貿易港として繁栄してきた港町で、古い洋館が数多く残された地域でもあります。

1980年代後半、これらの建物は、古いがゆえに老朽化が著しく、解体の話が進んでいました。この壊れかかった建物を保存し、それを使いながらロマンチックな雰囲気が漂う観光拠点にしようとしたのが事業の始まりです。その後、我が国初の歩行者専用の跳ね橋や、本市の友好都市である中国大連市の象徴的な建物（国際友好図書館）などを加え、1995年に門司港レトロとしてオープンしました。

この門司港レトロのオープンがもたらした効果はスペースワールドの次に大きく、門司港レトロがオープンした1995年の観光客数は、前年の674万人から77万人増加し、752万人となりました。また、観光消費額は329億円から30%近く増加し、421億円となりました。

その後も、民間主体の開発を継続しており、観光客誘致1千万人を達成した1998年には門司港レトロだけで166万人の観光客が訪れています。

北九州地域の観光は、景観中心の観光でなく、過去の歴史を活かした観光という点で、他の地域とは一味違います。

第2の特徴として本市の産業技術の集積を生かしたきわめて独自性の高い産業観光について紹介します。本市では、日本有数の工業都市であるという特性を生かして、重工業から家庭用品まで様々な工場を見学することができる産業観光を推進しています。

スライドは、ヤスカワ電気ロボットです。この工場は、以前はモーターを作っていましたが、今は、ロボットを作っています。前は、製鉄と言えば、大きな鋼板でしたが、今は、高度の芸術品のような薄い製鉄に変わりました。自然を楽しむというより、北九州の観光は、これらの産業資源を体験し、学習する観光です。それで、我々は、学習観光・産業観光と呼んでいます。

近年の観光形態は、単なる物見遊山的な観光から「体験」や「学習」の要素を強めた観光へと変化してきていますが、産業観光はこうしたニーズに対応できる本市独自の観光で、現在のところ、年間約26万人に体験していただいています。

特に最近では、地球温暖化をはじめとする環境問題への関心が高まっていることから、ゴミのリサイクルを中心とした環境産業への見学希望者が増加しています。

スライドは、1990年半ばの状況です。これが、右のようにきれいになりました。本市はかつ

て、四大工業地帯の1つとして日本の高度成長を支えてきましたが、その一方で、大腸菌すら棲めない「死の海」や「七色の煙」に象徴される日本一の降下煤塵など、深刻な産業公害も経験しました。左は、洞海湾です。死んだ海でした。汚水が全てここに流れてきました。酸性度が高く、大腸菌さえも棲めない、死の海でした。しかし、今は、こんなにきれいです。きれいになった原因は、下水道の廃水施設の整備です。ここに至るまで30年もかかりました。8000億円以上を投資し、民間も約30%を負担しました。この過程を通じて、環境に関する技術が高度化されました。

本市では、この公害を克服する過程で培った環境に関する技術やノウハウ、人材などを活かして、ゴミのリサイクルの基礎研究から技術開発、事業化、国際協力に至るまでの総合的な事業「北九州エコタウン」事業を行っています。

この事業の特徴は、①学術研究都市の整備による、教育・基礎研究の場の充実、②実証研究センターでの技術・実証研究、③総合環境コンビナートでの事業化という3つを柱にし、それぞれ連携を取りながら進めているところです。

現在、実証研究センターには、焼却灰やプラスチックのリサイクルなど10の研究施設が立地するとともに、総合化学コンビナートでは、ペットボトル、OA機器、自動車及び家庭電気製品の4つのリサイクル工場が稼働しており、これらの施設の見学者だけでも年間2万人を越えています。

今私が着ているこのスーツは、ペットボトルをリサイクルした繊維で作った服です。後で、近くまでいらしてご覧になって下さい。

現在では、この産業観光を特に「修学旅行の観光資源」としても活用しており、スペースワールドや門司港レトロなどの観光施設とセットにした誘致活動を行っています。

さて、2001年には本市で「ジャパンエキスポ北九州博覧祭2001」を開催します。この年は、日本の近代産業の幕開けをもたらした官営八幡製鉄所が北九州市に誕生して100年となる記念すべき年です。この記念すべき年に、北九州市を世界にアピールし、新しい時代の発展のシンボルとなる博覧会を開催するものです。

北九州市は過去100年の間、製鉄業を中心とした産業の繁栄、公害、衰退、克服、そして新たな挑戦の歴史を歩んできました。その歴史に育まれた「モノづくりの技術と心」という北九州市の貴重な財産を、この博覧祭に生かし、さらに発展させていきたいと考えています。

会場では、北九州市の特色である「産業・技術」「環境」「アジア」「健康・福祉」「産業観光」の5つを視点としてテーマパビリオンの運営や各種催事等を行い、21世紀の社会全体の課題とその対応について、皆で考えていこうというメッセージを発信していきます。アジアの皆様が多く参加して下さいを願います。先ほど申し上げました産業観光もあります。エキスポ

ポのテーマの一つである「環境」に多くの方が関心をお持ちだと思います。ここにいらっしゃる皆様にぜひ参加して頂きたいと思います。

また、本日必ず申し上げたかったことは、外国人観光客も重視すべきとのこと。外国人観光客は、北九州市という一都市に観光に行くという意識はなく、観光といえば、温泉、自然等を考えます。目的地も、九州、北海道など、広いエリアを考えます。一都市のみを訪れるのではないため、外国人観光客の誘致を進めるには、1自治体のみでのPR・集客活動では限界があり、広域的な観光ルートの設定など、他都市との協力が必要となります。皆様も同じ立場だと思います。北九州市は、福岡市と共同して、PRをしています。

広いエリアの自治体が共同で観光客を募集する必要があります。

また、北九州市は、黄海に面した各都市と様々な共同作業をやっていきます。経済界、学界、市行政当局等で構成された複数の都市間で、アジア・太平洋都市サミットのような交流を行っています。このような経験を通じて、各都市が持っている様々な観光資源、歴史、文化、レジャーを上手く結合させれば、素晴らしい観光ルートを開発出来ると思います。新しい観光産業も作れると思います。来年は、エキスポを計画しています。ぜひとも2001年の北九州市の博覧祭会場にご来場いただき、北九州市の観光産業の現状を体感していただけたらと思います。エキスポに参加しないでも、必ず北九州市を訪問して下さい。

これを機会に交流の輪が広がればと願っています。

ありがとうございます。

○ 座長

北九州市長、ありがとうございます。次は、クアラルンプール市、お願いします。

[クアラルンプール]

○ 文化社会福祉部副課長 ジャイナル・アビディン・モドザイン

座長、そして、ご列席の都市代表の皆様。私は、クアラルンプールの観光産業振興に関する経験を発表したいと思います。

まずは、背景についてご説明します。

マレーシアは、人口2,200万人余りと少なく、主要観光市場としては見過ごされてきました。しかし、最近になって、マレーシア連邦政府は、社会経済開発全般での観光事業の作用に気付き、観光事業部門に刺激を与え、開発するために一連の施策を打出しました。

マレーシアの首都クアラルンプールは、現在も国の金融・商業です。外国人旅行者の約57%

ポのテーマの一つである「環境」に多くの方が関心をお持ちだと思います。ここにいらっしゃる皆様にぜひ参加して頂きたいと思います。

また、本日必ず申し上げたかったことは、外国人観光客も重視すべきとのこと。外国人観光客は、北九州市という一都市に観光に行くという意識はなく、観光といえば、温泉、自然等を考えます。目的地も、九州、北海道など、広いエリアを考えます。一都市のみを訪れるのではないため、外国人観光客の誘致を進めるには、1自治体のみでのPR・集客活動では限界があり、広域的な観光ルートの設定など、他都市との協力が必要となります。皆様も同じ立場だと思います。北九州市は、福岡市と共同して、PRをしています。

広いエリアの自治体が共同で観光客を募集する必要があります。

また、北九州市は、黄海に面した各都市と様々な共同作業をやっていきます。経済界、学界、市行政当局等で構成された複数の都市間で、アジア・太平洋都市サミットのような交流を行っています。このような経験を通じて、各都市が持っている様々な観光資源、歴史、文化、レジャーを上手く結合させれば、素晴らしい観光ルートを開発出来ると思います。新しい観光産業も作れると思います。来年は、エキスポを計画しています。ぜひとも2001年の北九州市の博覧祭会場にご来場いただき、北九州市の観光産業の現状を体感していただけたらと思います。エキスポに参加しないでも、必ず北九州市を訪問して下さい。

これを機会に交流の輪が広がればと願っています。

ありがとうございます。

○ 座長

北九州市長、ありがとうございます。次は、クアラルンプール市、お願いします。

[クアラルンプール]

○ 文化社会福祉部副課長 ジャイナル・アビディン・モドザイン

座長、そして、ご列席の都市代表の皆様。私は、クアラルンプールの観光産業振興に関する経験を発表したいと思います。

まずは、背景についてご説明します。

マレーシアは、人口2,200万人余りと少なく、主要観光市場としては見過ごされてきました。しかし、最近になって、マレーシア連邦政府は、社会経済開発全般での観光事業の作用に気付き、観光事業部門に刺激を与え、開発するために一連の施策を打出しました。

マレーシアの首都クアラルンプールは、現在も国の金融・商業です。外国人旅行者の約57%

は、クアラルンプールからマレーシアに入国しますが、クアラルンプール市内での平均滞在日数は、他の主要観光地の場合より極端に短く、全国平均の5.0泊に比べ僅か1.6泊となっています。

この少々見劣りする状況を是正し、クアラルンプールを世界的な都市に衣更えするという目標の下、クアラルンプールを世界有数の観光地とするよう、現在、努力をしているところです。ただし、国内の他の観光地と競合することを意としているものではありません。

この目標を実現するためには、本市に存在する力を再発見し、これを動員して、現実的で無理のない段取りで解決を図る必要があります。クアラルンプールの長所は、次のようなものです。

政治の安定 大災害地帯から外れている地域多様かつ興味をそそる文化的遺産及び多民族性
旅行者にとって、温暖で安定した気候であり、安全で安心できる環境のため 長期滞在型に向いている 熱帯の庭園都市環境内に点在する近代的建築物と伝統的建築物の融合マルチメディア
スーパーコリドー(MSC)内であるため、国内の最先端情報通信の中心地であること 国際・世界クラスのスポーツ施設、競争力のある価格設定をした幅広い品揃えの国際的なショッピングモール専門店街や地元小売店街宿泊料が比較的安く、通信施設と会議・コンベンション施設完備の国際クラスの豪家ホテルから一般向けホテルまでの大型ホテル群マレーシア最大の国際空港(KILA)とのアクセスが容易であること、2002年初頭には、市内から空港までの所用時間は高速鉄道(ERL)により 30分以内となります。

クアラルンプールは、MICE (会議、インセンティブ旅行、大会及び展示会) の開催地となること、スポーツ観光、文化観光の目的地となることの3分野を視野に入れ、プロモーションとマーケティング戦略を展開します。

MICE諸活動は、マレーシアにとって、またクアラルンプールとその隣接市町村(クアラルンプール都市圏)にとって、成長の可能性を意味し、明らかに上昇傾向が見られます。会議・大会及び展示会参加外国人数において7%の増加が認められます。この開催地としては、MINESコンベンションセンター、プトラ・ワールド・トレード・センター(PWTC)の2施設に人気があります。

では、スポーツ観光について述べさせていただきます。

過去5年間の政府及び民間投資により、クアラルンプール都市圏では、世界大会開催向けの設備を有するスポーツ施設が整いました。クアラルンプールは、最近(1998)、今までで最も優れたイギリス連邦競技を組織しました。2年連続(1999・2000) F1カーレースと世界モーターサイクルグランプリを各1ステージ、世界卓球選手権(2000)、ワールドカップゴルフ(2000)、トーマス・カップ決勝大会(2000)並びにマレーシア独自の自転車競技でクアラルンプール都心をゴールとするツール・ド・ランカイ等で、これはツール・ド・フランス等に次ぎ、現在4番目に権威を有する自転車競技となっています。今後、クアラルンプールは、シー・ゲーム(2001)、

ジュニア・ホッケー世界選手権(2001)、男子ホッケー世界選手権(2002)及び世界ベテランズ陸上競技選手権大会(2003)のホストを務めます。実際のところ、クアラルンプールは、アジア競技大会(2006)、オリンピック(2008)の誘致登録を済ませており、実現に力を注いでいます。これらのイベントには十分な支援が見込まれており、政府資金割当て済みのものもあります。

次に、文化観光について申し上げます。クアラルンプールの多様な文化の融合と遺産は、既にユニークな観光資源となっています。祝祭は、通年開かれており、その多くは年中行事です。これらの行事をパッケージして宣伝すれば、より大きなインパクトが得られると考えます。例えば、ヒンズーの感謝祭タイプサンは、外国人観光客に人気がありますし、新年行事ハリラヤやオープンハウス精神の中国正月は、共に観光資源としての魅力を備えています。

以上述べてきた3分野の資源開発は、互いに連携したものとします。各分野のパッケージでは、当該分野に焦点を当てると同時に、他分野の要素も組み入れます。マレーシアを構成する各人種の生活の諸相と文化的背景を、観光客に直に体験していただくことが観光の意義と考えています。

クアラルンプールは、有望な国際的観光地としての資質を備えています。マレーシアの多様性こそが魅力であり、クアラルンプール市当局は、KLTCを通じて、この多様性を観光市場へアピールしていく考えです。これは新しい方針であり、関係者全てが緊密な連携のもとに推進していく必要があります。

国レベルでは、本年は850万人の外国人観光客を見込んでいます。これは、前年に比べて約150万人の増加です。マレーシア当局として、外国人観光客に対して多くのアトラクションを用意しており、この目的は達成可能なものと考えています。

ご静聴ありがとうございました。

□ 座長

クアラルンプールの副局長、ありがとうございます。次は、大分市、お願いします。

【大分市】

□ 副市長 護雅行

大分市の事例発表を行います。

都市サミットの第3分科会は「観光産業の育成案」ということですが、この観光産業は21世紀のそれぞれの都市にとって最も成長を期待する重要な産業であろうと考えておりますし、大分市についても、遅ればせながら観光産業の育成について努力してまいっておりますので、2000

年の本サミットの議題として時宜を得たものであると考えているところでございます。つきましては、大分の取り組み等をご紹介させていただきます。

まず、スライドをご覧ください。これが九州でございます。大分はその東の中核都市と位置付けられております。

次が、その大分市の全域で、隣が別府市となっております。

まず、最も古くから大分における観光地として広く知られております高崎山についてご説明を申し上げます。高崎山はかつて猿の餌付けに成功し、その結果、次第に猿の数が増えましたが、観光客も増加し、最も多くの入園客のありました1965年には、年間190万人を超えております。しかし、その後観光客の減少傾向が続き、昨年はほぼ40万人という状況になっております。

このことは、九州の中でもハウステンボスやシーガイアなど多くの観光施設が充実してきたという点もありますが、時代の流れとして、ただ単に猿が多数いれば観光客に見てもらえるということから、相当な工夫をしなければ多くの観光客に来てもらえない時代に入ったと認識し、餌付けによって集まってくる猿を見れる魅力とともに自然の中で生息する猿を観察体験できる学習観光といったことも視野に入れながら、今後の高崎山と自然動物園の在り方について多方面から研究してまいりたいと考えております。

また、猿の増加により自然生態へ影響が出てきていることから、適正な生息数をどのように管理していくかといった課題も浮かび上がっております。

一方、スライドでご覧いただいております高崎山のある海岸線は、この高崎山とマリンパレスという水族館が中間にあり、海にせり出した緑豊かな山々と波静かな別府湾が美しい自然景観を形成しております。

この海岸線は、日本有数の国際マラソンであります「別大毎日マラソン」が毎年行われていることで有名ですが、このマラソン大会につきましては新人の登竜門と言われ、素晴らしいタイムを記録し、数々の名選手を輩出していることで有名です。

このマラソンコースとなっております海岸線の一部である田ノ浦海岸は、現在、海浜公園として順次、整備中ですが、まず、今年の7月には海水浴場部分が使用出来るようになります。また、この公園は海水浴のほかウインドサーフィンや水中ダイビングなどマリンスポーツの拠点としても使えるようになります。

そのような海岸線整備の進む中、マリンパレスの立て替え事業も計画され、大分市街地近くでは「西大分ウォーターフロント開発」といった事業も予定されております。

高崎山自然動物園も環境に配慮した観光産業としてのコンセプトを基に、時代に合わせた新しい形を検討しております。

次にまいります。

ご承知のように、2002年に日韓共催の「ワールドカップサッカー大会」が開催されますが、このスライドは西日本唯一の会場となりますスタジアムの建設中の現在の写真です。4万3千人入る開閉式のドームで既にその姿を現しており、この形体から愛称もビックアイと決まっております。2002年の6月にはこの会場で素晴らしい熱戦が繰り広げられることと思われませんが、このスタジアム建設に合わせて周辺255ヘクタールをスポーツ公園とする整備も進んでおります。

スポーツ公園の整備につきましては、里山の保全に最大限の配慮をし、移植出来るものは極力行い、また植樹についても大分の自然の群生状況を出来るだけ再現するという形での植樹に心掛けておりますし、この地域の中にはオオイタサンショウウオという小型で希少種のサンショウウオが生息していることから、それらの生息のための溜池等の設置にも配慮しながら整備いたしております。

この写真がそういったものです。

次に、この公園は「七瀬川自然公園」です。

氾濫の多かった蛇行した河川形態に防災のため直進する新しい河道をつくりましたが、旧河川と新しい河道に囲まれた13.3ヘクタールの豊かな自然の残った土地を自然公園として整備するとともに、通常は旧河川に水を通し、子供達が河川に入って小魚と戯れることの出来るような自然に親しめる公園といたしております。

また、その北側までは都市化が進んでおりますが、南側は大分の誇る自然が残ったままであり、それらとともに大分の自然を楽しむ人達の拠点となっております。

次に、昨年2月にオープンしたばかりの「大分市美術館」です。

中心部の丘の自然を極力残し、環境との共生を最大限配慮した美術館で、美術館のある「上野丘公園」一帯には13ヘクタールにわたって緑が残っております。この公園整備につきましても元の自然形態を最大限残しており、美術館の建設予定地にありましたタブの木をそのまま残すために、美術館の設計の方を変更したというエピソードも残っております。

この写真がその部分です。

次の写真は、先月完成したばかりの「亀塚古墳公園」で県下最大の前方後円墳を公園として整備したものです。

これにつきましても、古墳の周辺を含め自然を出来限り残すよう配慮いたしております。

こうした自然環境に配慮した観光開発については、大分市全域について本年それぞれ策定した、人と自然との共生や循環型社会の構築等を目指す「環境基本計画」や緑地の保全、都市公園の整備等を目指す「緑の基本計画」に沿ったものとなっております。

これが、「緑の基本計画」の全図です。

皆様ご承知のように、大分県は平松知事が「一村一品運動」を推奨し、県下各地に様々な特色

ある産物が生まれております。また、海、山、川の自然に恵まれる中で、ふぐ、関アジ・関サバといった新鮮な魚、また松茸、豊後牛といった特色ある産物が豊富にあります。

幸い、大分市は大分県の県都としてこれらの数多くの産物が県下全域から集まり、これらを生かした料理を味わうことが出来るようになっております。また、「だんご汁」といわれる大分独特の分厚い特別な麺の料理もあります。

そこで、これらのグルメ料理を楽しんでいただけることが大分市の観光の大きな魅力であると宣伝に力を入れております。

その宣伝のために、皆様のお手元にお配りしていますコミックも活用いたしております。ご承知のとおり、日本では大人までコミックを読む傾向のある国でございしますが、その中でも大変有名なコミックに大分が取り上げられましたことをチャンスとして、「美味しんぼ王国大分」という名で売り出しをしております。

この売り出しにおいて、「美味しんぼ王国大分」には良好な自然に育まれた豊かな食材の供給が欠かせないとの認識から、一層、自然環境の保全に取り組んでまいりたいと考えております。

大分の観光づくりにとっては、これらのハード面の整備やソフトの取り組みとともに、市民一人ひとりの観光客を暖かくもてなす気持が最も大切であり、ホスピタリティ溢れる気運を市内全域に醸成してまいりたいと考えております。

さらに、これまでは、観光は温泉で有名な別府市に任せ、商工業都市としてのイメージの強かった大分市ですが、こうした努力を一つ一つ積み重ね、「ワールドカップサッカー大会」開催を機に大きく脱皮し、観光都市として国際的デビューを果たせることを願っております。

最後に、2002年の「ワールドカップサッカー大会」には是非大分へお越しいただきますことをお願い申し上げまして私のお話を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

○ 座長

ありがとうございます。ウルムチ市の奴児白克里(Nur Bakry)市長、お願いします。

[ウルムチ市]

○ 市長 奴児 白克里(Nur Bakry)

このようにアジア・太平洋都市サミットで観光産業についてお話出来ますことを大変嬉しく思います。ウルムチの観光産業の条件と私たちの取組みについてご報告し意見交換したいと思います。

ウルムチ市は、中華人民共和国新疆ウイグル自治区の首府であり、全新疆経済、文化交通、商業の中心地です。ユーラシア大陸の中心にあって、天山山脈中段の北麓、ジュンガル盆地の南縁に位置する世界で最も海から遠い大都市です。また、新ユーラシア大陸横断鉄道の中国側の西の橋頭堡でもあります。総面積は、12,000平方キロ、市街地面積は150平方キロ、総人口154万人、漢、ウイグル、回、ハザック、蒙古、キルギスなど、43の民族が居住しています。

ウルムチは、古来より世に聞こえたシルクロードの交通の要衝でした。新中国成立後、この由緒ある都市は再び活気を取り戻し、数十年の発展を経て、現代的息吹と濃厚な民族的特色を併せ持つ繁栄した都市となりました。そして「中国都市総合経済実力五十傑」及び「中国都市投資優良環境ベスト40」の仲間入りをし、観光事業発展のための基礎と将来性を兼ね備えました。

ウルムチの豊かな自然と悠久神秘の人文景観、そして豪放磊落な人情は、音に聞こえ、ますます多くの内外観光客の注目を集めています。地勢の起伏が激しく、気候の差が顕著で、険しい氷峰溪谷があるかと思えば、完全に露出した地層や化石の大産地があり、登山探検、スケート、スキー、砂漠探訪、科学視察などに最適の場所でもあります。雲に聳える天山からグルバンテュンギョト砂漠まで、高山の冰雪、高山・亜高山の湿原や草原、山地の森林、山地の草原、山麓の荒野、砂漠といった景観が、順を追って分布する垂直方向の変化を見せる自然景観は、変化に富んだ学術調査や観光に最適です。

ウルムチ市内には、紅山、鑑湖、閱微草堂、水磨溝風景区、二道橋バザール、長橋飲馬などの「八景」があり、郊外には南山風景区、天山天池などの観光地や、ウラ泊古輪台遺跡、戦国古棺墓群、孔子廟の「宇宙標本」一隕石などの文化財があります。

また、ウルムチに住む多くの民族も、風俗習慣、宗教文化、建築風格、祭り、民族衣装、工芸品、地方料理、娯楽習俗など豊かな民族性を醸し出しています。ユニークな騎馬レース、巨羊(ティアオヤン。首を落とした山羊を馬に乗った選手が二チームに別れて奪い合うゲーム。ハザック、キルギス族などが好む)、姑娘追(ハザック。キルギス族などの若い男女が馬に乗って行う求愛ゲーム)、綱渡り、ハザック歌手の弾き語りなど各民族の娯楽活動や、辺境民族の歌好き、踊り好きそして客好きが異国の観光客にたまらない魅力を与え、毎年130万人以上の内外観光客がウルムチを訪れています。

地球的規模の交流と合作が増えるにつれ、対外開放の牽引車として来世紀に向けた発展の責を担うウルムチ市は、観光事業の一層の発展を求められています。この点、ウルムチは巨大な可能性を秘めており、その前途は洋々たるものです。

国の発展戦略の重点が西に移動するにつれて、西への開放が広がり、これが今後のウルムチ市の観光産業に大いなる発展の余地を与えてくれました。江沢民主席は、1998年7月の新疆視

察の際に、新疆は中国の経済発展、特に来世紀の経済成長の重要な支点となるだろうと明言しました。新疆が他に先んじて発展するためには、観光業の発展に力を入れなければなりません。朱鎔基総理は、新疆の観光産業に多大な期待を寄せ、新疆の経済発展における観光産業の地位を積極的に評価して、自らゴールデンルートを策定しました。国は「第九次五年計画」及び「2010年計画」の中で、人力・物力・財力を集中し、様々な優遇政策を行って中西部地区を開発することを謳っており、そこではウルムチが重要な地位を占めています。国はまた、1996年から新疆観光産業への肩入れを強めており、重点観光資源の開発と生態保護工事に特別予算を投入し、西部観光資源の開発利用に多大な支持を与えています。

同時に、自治区とウルムチ市は観光産業を優先的発展の先駆産業と位置づけ、『ウルムチ観光産発展「十五」規則』、『ウルムチエリア観光開発総体方案』などを制定、ゴビの奇観を特色とする地理景観、氷峰とオアシスが相映える水域景観、そして悠久のシルクロード文化を特色とする古跡や建築物、これらを観光産業の三大特色とするよう努力しています。

エリア観光発展の戦略を実施します。自治区の役割分担指示に基づいて、ウルムチと周辺の石河子、昌吉州、トルファン、ハミの5地・州・市は、エリア経済協力委員会を設置し、観光資源開発の指導と共同事業を担当しています。この5地・州・市は、分担協同、特色の強調を原則として、エリア内の観光資源を共同で開発し、効果の上げやすい規模まで広げていくことにしています。当該エリアには、古城、古墓、千仏洞、そして景勝地が700箇所以上もあり、ウルムチから東へは、阜康、天池、そしてボゴダ峰からダバン城、さらにダバン城に隣接するトルファン、ハミを通過して甘粛省敦煌までのルート、ウルムチから西へ石河子に至る「ゴールデンルート」とその延長が分布しています。このルートは、距離の長さを誇り、観光ポイントが揃い、規模も大きく、質も高くなっています。観光、視察、探検には願ってもない場所です。現在、これら5地・州・市は、連携してエリア内の開発に着手しており、点をつないで線とし、線を紡いで面として、観光資源をシルクロードの歴史、文化、人文的特色と有機的に結合させていく考えです。今後3年から5年のうちには、ウルムチを中心とし、天池とボゴダ峰風景区を核として、エリア内の特色ある資源を掘り下げて開発することを重点とし、「ゴールデンルート」を貫通させ、その両翼に展開するエリアの観光ネットワークを完成させます。それによって、エリア内の観光市場を活性化させ、商業、ホテル・旅館業、不動産業、娯楽業、交通運輸並びに農林生産等の分野に活力を注入します。

ここ数年のウルムチ観光開発における重点について説明します。

第一に、天池からボゴダ峰を越えダバン城に至る80キロの観光道路を建設し、ゴールデンルートの道路条件及び観光ポイントのサービス施設を改善して、ゴールデンルートの全線開通、運行の助けとします。

第二に、中国最初の氷河公園—ボゴダ峰国家氷河公園の申請と建設を行い、タバン城の開発を急ぎます。

第三に、ウルムチ南山観光区の全体的機能を高め、氷峰とオアシスが相映えるユニークな魅力溢れる観光地として、主要リゾート地化を目指します。

第四に、資金を積極導入して、アジア大陸の地理的中心にふさわしい景観と施設の建設を急ぎます。

第五に、ウルムチのショッピング整備、環境の改善、建設、管理に力を入れ、国際貿易ショッピングセンターとしての地位を確立します。

第六に、市の観光ポイントと風景区の基礎施設を整備して、サービスの質と管理を向上させ、サービス機能の強化によって観光環境を改善します。

第七に、投資者即ち受益者という原則に基づき、外資を誘致し、エリア内の観光施設の建設、観光ポイントの開発、そして観光商品の開発に、各種民間資金が参入するよう奨励、誘致を行い、観光事業発展の足取りを速めます。

第八に、観光宣伝に力を入れ、創意やイメージを大切にしながら、テレビ番組や写真集などを制作し、計画的組織的に宣伝を行ってウルムチの国際的知名度を高めます。

以上、ウルムチの観光産業の発展には、国の支持による政策的な有利さや特別な開発戦略という利点ばかりでなく、恵まれた資源やエリア連合の地縁的優位性をも併せ持つため、その前途は洋々たるものであることを述べました。海外の業者や有識者各位が、ぜひウルムチに來られて、投資、開発、創業し、私どもと共に発展し、輝かしい未来を創造されんことを心から歓迎いたします。

□ 座長

ウルムチ市の奴兒白克里(Nur Bakry)市長、ありがとうございます。7都市の事例発表が終わりました。ただ今より、自由討議に移りたいと思います。質問のある方は、手を挙げて下さい。

質問ではなく、意見でもかまいません。自由討議の時間は11時30分までです。では、ホノルルから始めたいと思います。

□ メネンデズ3世 ホノルル市経済開発局長

今日発表して下さいました皆様には感謝申し上げます。具体的な参考になる情報を提供して下さいました。そこで皆様にお聞きしたいのは、次の段階で何をやるべきかということです。このように討議するのは、大変重要なことです。しかし、問題は、学んだ事を如何に行動に移すのかということです。つまり、ホノルルの場合は知識を基にした開発だとすれば、皆様の市では別

の方法が可能だと思います。また、皆様の市がホノルルに協力することも出来ると思います。

これに対し、提案やコメントをお願いします。

○ 座長

参加都市全員への質問ですね。全ての都市に該当する質問です。

ホノルル市は、知識基盤社会で、次の段階として知識基盤観光産業を推進すると言いましたが、この点についてもう少し具体的に説明をお願いします。

○ メネンデズ 3 世 ホノルル市経済開発局長

観光産業には、直面した様々な難題があります。大きく進展した分野もありますが、試行錯誤も経験しました。このような点で、知識を共有することによって同じ失敗を繰返さないですむと思います。ホノルル市は、北九州市と共に最善の都市ウェブサイトを運営しています。

北九州市とも協力したと申し上げました。

私たちは、このような会議によく参加しますが、論議された内容を行動に移すのが重要です。質問したいのは、次の段階でどのようなことが出来るのかということです。幾つかの会議に参加しましたが、重要なのは如何に行動に移すかということです。つまり、討議の内容を実行に移すのが一番大切だということです。

お互いの都市を相互訪問するのも良いと思います。北九州市の市長が私たちを招待して下さいましたが、私もホノルルに皆様をご招待します。観光ではなく具体的に討議をするためです。各都市が抱えている問題点やニーズがあると思います。まずそのような問題点を把握すれば、それをベースに次の行動計画を立てる事ができると思います。

○ 座長

ありがとうございます。皆様はホノルル市の意見を充分理解されたと思います。では、各都市から、次の段階で何をするのか、発言をお願いします。では、北九州市、お願いします。

○ 末吉興一 北九州市長

今、ホノルル市が発言して下さいましたように、次の段階で何をやるべきかを考える必要があります。まずは、ハード面でどのような施設をもって観光客を誘致するのか考えるべきです。これは全ての都市に当てはまることだと思います。

しかし、私はソフトの提案をしたいと思います。

例えば、ハワイは大変広く、各地域は各々特徴を持っています。ウルムチ市長も広い地域を見

所として観光客を誘致するという意見を述べて下さいました。日本の場合、地域レベルで一番多くの外国人観光客を誘致している都市は北海道です。北海道は、雪が多く、スキーが出来ます。北海道をあげて観光客誘致のために取り組んでいるので、このような成果を上げられたとも思います。では、なぜ北海道が一つになれたかということですが、北海道自体が一つの県だからです。日本の中の行政事情もあろうかと思えます。北海道はスケールや内容、コンセプトが非常に明瞭です。

では、九州全体も北海道のように行っているかという、そうではありません。持っているものが北海道に劣るかという、冬の場合は北海道、夏もそうでしょうけど、必ずしもそうとは言えません。

行政単位で観光を考えると、日本国内だと、九州の中では良いのですが、外国人観光客の誘致においては困るのではないかと思います。

そういう意味では、物を作って誘致するよりも、知恵を出して、つまりソフト面で補っていくというのが次のステップとして必要です。これは外国の皆さんとの議論でなく、やや内向きの議論かも知れませんが、必要です。皆様方は、特にホノルルやウルムチからいらした方は、私達の考えている観光客誘致より、遥かに大きい地域のスケールの中で観光を考えています。

ホノルルの質問にお答えします。私共は、広域の中で、広いエリアを対象に観光を捕らえる必要があると思えます。

そして、市長は政治家ですが、市長だけでなく、むしろ観光を支えている業界・経済界の会議が必要だと思えました。それが次の段階として必要ではないかと思えました。私の率直な意見はそういう所です。

□ 座 長

北九州市長から、日本を代表したようなご答弁を頂きましたが、他にございませんか。

□ 護雅行 大分副市長

色々な世論調査を見ると、今の日本人は、フリーな時間をどう有効に使うかというのが一番の関心事になっています。ですから、旅行やレジャーに対しては、かなり関心を持っています。私も色々な所へ行ってみましたが、世界の至るところで日本人に会います。以前は、買い物する姿が多く見られましたが、今は、その土地へ行ってゆっくり過ごすことを好みます。その地域のいい所をしっかりと満喫したいという傾向にあります。そういう意味では、最後に発表して下さいましたウルムチは、既に日本人が行っていると思えますが、観光地としてかなり有望だと思います。実は私、今回釜山に妻を連れて来ることが出来ませんでした。妻は、前から同じ時期

に、中国の西安へ行って西安から敦煌へ行く旅行を計画しております、今、そちらに行っています。

今、日本人も皆様の都市へよく訪問していますが、北九州市が発表して下さいましたように、旅行者との提携も必要ですが、都市間での協力も可能ではないかと思えます。

○ 座長

他に。大分市代表、何かございませんか。

○ 護雅行 大分副市長

発言の機会を与えて下さりまして、ありがとうございます。

参加都市を観光という目で見てもみますと力の強弱がございます、ホノルル市のように世界の中に知らない人はいないという所から、大分市のようにあまり知られていない都市までいて、差があるかも知れません。また、大分市は、先ほどご紹介しましたように、観光を行政上の課題としたのはここ数年のことです。全くまだ勉強している最中で、皆さんにシェア出来る知恵というものが余りなくて大変恐縮です。ただ今、福岡市がおっしゃったように後発の都市ですので、既に行われた巨大装置型の観光はもう無理なので、大分市民がどういう風に人生を楽しんで生きているかを見て頂くということに地道に力を入れて、観光客の方々に「大分市民は楽しい人生を生きているんだな」という事を分かって頂きたいと思っております。そのため、文化に力を入れたり、美術館や音楽会など、観光客と市民と一緒に楽しめる環境を作っていきたいと考えております。

○ 座長

大連市代表、どうぞ。

○ 李永金 大連副市長

ただ今、ホノルル市から、観光産業を次の段階でどう発展させるかについて話して下さいました。大連市は、以前は、産業港都市でした。観光産業は、中国では、経済が発展するに連れ、ここ数年やっと目覚めた産業です。また、多くの中国人はまだ旅行を経験していません。一部の人のみ旅行に関心がありました。

しかし、最近、中国政府で経済発展を促進するため、観光産業の開発を始めました。例えば、祝日に長い休暇を与えたりしました。今年は、5月1日から7日までが休暇です。関連資料によりますと、中国の6000万人に至る人々が国内旅行を楽しみました。数百万名が香港や東南ア

ジアなど海外地域に旅行しました。大連市は、5月1日のメーデー期間に、平均約10万名の観光客を迎えました。

殆どどのホテルは満室で、飛行機も汽車もチケットがなくて大変でした。道路は渋滞していました。観光地は、観光客でいっぱいでした。5月1日以降、中国のTVや新聞などのマスコミは、中国の休日経済について、休日経済が観光産業に及ぼす影響について研究しています。

中国政府機関の関連部署でも、これに対する研究を加速化しています。つまり、如何に中国国内の観光客を迎え、また、如何に世界の観光客を迎えるべきかについて多くの準備をしています。ホノルルや福岡のように観光産業が発達した都市での観光産業発展施策は、私たちのようにスタートの段階にある都市には、良いモデルとなっています。

大連は、三つの方面で推進しています。第一には、都市環境を観光産業に合わせて改善することです。都市の環境、交通、SOC、ホテル、宿泊業などに対するメンテナンスと新規建設を行っています。こうする事によって、より多くの観光客を迎えるよう準備しています。

第二に、観光資源の開発です。大連は、100年の歴史を持つ新しい都市です。歴史の遺産が多くありません。中国の桂林や杭州のような壮大な自然もありません。大連は、人々に魅力を与えられる観光資源を開発するという課題に当面しています。

大連は、国家観光地を建設しています。テーマパークは、アメリカで設計し、大連市と一緒に投資したプロジェクトです。このテーマパークには、三つの映画館があり、ラスベガス、ディズニー、未来世界等18の主題があります。

また、私たちは、大連に合った観光地を開発しています。人々がより楽に観光出来るよう、観光地を開発しました。メーデーの時、大連市の全ての公園は、人でいっぱいでした。大連の公園の入場料の収入だけでも、200万元に達しました。2時間並んでやっとチケットを買えるくらいです。

第三には、販促を強調しているという点です。国内で大連を宣伝し、広告し、国際市場でも大連を広報しています。このような広報活動を通じて観光客に大連を知らせています。大連が美しく、気温が穏和で、冬も寒くなく、夏も暑くない、静かで美しい観光都市というのを認識するように広報活動を繰返しています。この分科には、ホノルルのような世界的に有名な観光都市が参加しています。このような都市の経験は、私たちに重要なモデルになります。中国観光産業の発展、大連観光産業の発展にも大変参考になります。私は、ここで各都市の観光産業に関する経験を聞いて光栄に存じています。ありがとうございます。

○ 座 長

ありがとうございます。他にホノルル市の提案にご意見ございませんか。

この都市サミットで今後も実務者レベルであるとか、或いは、いわゆる民間人等も含めた形で観光について更に討議していくということは提案していきたいと思います。

また、北九州市のおっしゃった広域的な連携も深めて行くように、これからそういう方向で議論を進めていくということによろしいでしょうか。

□ メネンデズ 3 世 ホノルル市経済開発局長

観光商品開発に関する大連のアイデアを興味深く聞かせていただきました。

観光には、様々な形があります。ハワイの経験を述べさせていただきますと、エコ・ツーリズム、文化・ツーリズム、スポーツ・ツーリズム、アウェアネス・ツーリズムのようなものがあります。そして、健康・ツーリズム、学習と教育観光もあります。それは、外国の方にハワイの教育体系をご覧になって頂くプログラムです。

ところで、これを一つに束ねるのは、人です。その地域の人々こそ、多様な活動を一つに束ねる原動力です。ですから、アジア・太平洋都市サミットで模索すべき事は、人々を如何に教育させるかであります。

観光産業には、共通的な特性があり、この点を教育を通じて強調すべきです。人々がまた訪れたい都市にするべきです。私たちの本当の課題は、持続可能な観光を作ることです。観光客をもう一度訪れさせ、また、彼らの経験がより豊かになるように取組まなければなりません。

私達の目標は、観光客を再び訪れさせることです。レストランやホテルをもう一度訪れるのは、親切な人がそこにいるからです。ある街を訪れたとします。そこにいる人々が本当に親切で色々と助けてもらったりしたら、その街へもう一度行きたくなります。

だから、人々を教育させること、私たちの知識と知恵を一層磨く必要があるのです。昨晚、金詰壽教授がおっしゃったように、ウェブサイトを通じてお互い交流出来ると思います。このような会議が多く開催されますが、会議に参加するだけでコミュニケーションを取らなかったら意味がないです。

本分科会での提案が各都市の緊密な連帯関係の中で継続的に推進されるべきだと思います。インターネットを積極的に活用すれば、それが一層円滑に行われ、コスト削減の効果もあり、究極的に多くの都市の情報と知識を共有し、継続的に交流する土台が築かれるでしょう。

最後に、技術と訓練に関するデータバンクを作る議定書や合意書を提案します。世界銀行は、途上国と一緒に使える技術があるだろうと言っています。しかし、低開発国家が先進国から得られる情報も幾つかあると思います。インフラと関連したテクノロジー、環境保護に関する技術などです。このような知識を銀行の概念で集めるのです。そして、それを、他の低開発国家、或は途上国にライセンスという形で提供するのです。例えば、きれいな水と良いインフ

ラ、輸送施設がなければ、いかなる都市も維持出来ません。観光客もアクセスが大変です。

ですから、都市サミットがこのような銀行の概念を発展させ、途上国と先進国間の情報と知識を共有しようというものです。これは、ライセンス費用以外は初期の投資が少ないと思います。ありがとうございます。

○ 座長

ご提案ありがとうございました。今提案については積極的に検討していきたいと思いますが、他にはございませんか。

今度中国では海外旅行が自由化されます。大連市が一部説明して下さいましたが、これは、大変大きな出来事だと思います。段々国民の生活レベルが高くなりますと、国内の観光も盛んになるでしょうし、海外旅行も盛んになると思います。正にこれからアジア・太平洋地域において観光産業は一層重要になってくると思います。今回のこのテーマは、非常に時宜適切だったと思います。

他に、質問やご提案ございませんでしょうか。

クアラルンプールは、クアラルンプールだけを訪問する人は少ないと思いますが、クアラルンプール経由で回りの観光地に出掛けるということになると思いますが、その辺の関係は国の仕事でしょうか。クアラルンプール市としても他の地域の観光に力を入れていますでしょうか。

○ モドザイン クアラルンプール文化社会福祉部副課長

発表の中でも触れましたが、クアラルンプール市の問題の一つは、海外からの観光客の内、約20%がクアラルンプールを経由しますが、クアラルンプールでの滞在は1.6泊に過ぎないということです。私たちには、ペナンのような有名な観光地もあります。クアラルンプールならではの長所も多いです。クアラルンプールは、内陸地域に位置しているので自然景観を楽しめます。内陸地方のツアーを一層発展させることも出来ると思います。

クアラルンプールは、様々な文化的な面を観光客に見せるという展示概念、ショーケースの概念を発展させています。様々なお祭りが一年中開かれます。これは、相当独特な文化要素です。タイプーサムのようなヒンズーのお祭りは、外国観光客に大変人気です。ホノルル市もおっしゃいましたが、人々が継続して訪れるよう、このようなお祭りを活性化させるべきだと思います。

多様な宗教的祝祭があり、これが毎年開催されるのが独特で、ここに参加する民族の特徴も見所になると思います。タイプーサム祭りは、インドでも開かれますが、マレーシアでもそれに劣らないくらい大きい規模で開催させていることを申し上げたいです。クアラルンプールも

観光客を誘致する方法をそれなりに持ち合わせていると思います。ありがとうございます。

□ 奴児白克里(Nur Bakry) ウルムチ市長

各都市代表のお話を聞いて色々と考えさせられました。参加都市は、海岸沿いに位置しているという共通点があります。しかし、ウルムチは、海から遠く離れています。東西南北の四つの方向を考えても、海から2300キロ以上離れています。つまり、世界で一番海から遠い都市です。

ウルムチは、アジア大陸の中心に位置しています。アジア大陸の地理的中心地がウルムチ市なのです。それも大きな特徴です。ウルムチが属した新疆ウイグル自治区は、面積が大変広いのです。中国面積の1/6に達する160万km²です。ここに、人文的な資源、生態界、景観が揃っています。観光客にとって見所です。

ウルムチ市のもう一つのメリットは、1000年前、東西の文化を結んだ一番重要な都市という点です。以前は、シルクロードがあまり有名ではありませんでしたが、今は韓国、日本、東南アジア等でシルクロードを知らない人は殆んどいないと思います。

ここで、ウルムチが1000年前の栄光を取り戻し、シルクロードとしての役割をもう一度果たせるかというのが重要なことです。このため、ウルムチ市は、観光産業を新しく始めたと言っても過言ではありません。詳しく説明出来ませんが、インフラが不十分で問題です。例えば、宿泊、食べ物、通信、連絡も問題が多いです。これらの問題は、観光産業に影響を及ぼすでしょう。

ウルムチは、20年、30年前までは奥地でした。しかし、現在は、現代化されました。私たちは、この会議に参加されたホノルルや福岡等、世界でも有名な都市の皆様がウルムチを訪問して観光産業に対し話せたらと思います。皆様に、満足という印象は与えられないかも知れませんが、きっと忘れられない景観をご覧になって頂けると思います。

□ 座長

ありがとうございます。日本人の一人として、今後、日本人の観光客が沢山訪問すると確信いたします。7都市の代表が皆発言して下さいましたので、これを持ちまして自由討議を終わります。

***** 休憩 *****

○ 座 長

会議を再開します。座長の権限で少し時間を割愛しましてホノルルの代表団として参加して下さいましたテド・スタルディバントさんのお話を聞いてみたいと思います。この方は、旅行業を代表する民間人です。

○ テド・スタルディバント ホノルル市 ネットワーク副社長

発言の機会を与えて下さりありがとうございます。都市サミットに参加し、ホノルルの民間部門を代弁して発言できますことを大変嬉しく存じております。民間部門の事業家として私の意見を申し上げます。

私は、この分野で30年間働いてきました。私の勤めている会社は、ハワイで一番多様な本を発行しています。中国語、韓国語、日本語の観光ガイドブックを発行する会社です。また、ワイキキにある全てのホテルに供給される二つの日本語放送チャンネルを持っているだけでなく、韓国商工会議所、中国商工会議所でも仕事をし、ホノルルの展示関連分野でも仕事をしています。

この業界は、3年間多くの変化を経ました。構造、組織分野で多くの変化を経ました。それで、新しい観光開発を考える方に一つ提案したいと思います。そして、観光産業のマーケティングについても提案したいです。

まず、一番提案したいことは、もし、皆様が観光振興関連の協議体を作るとしたら、ここに民間部門の代表も参加させるべきだということです。交通、ホテル、小売業者等の民間部門も協議会に参加させるべきです。彼らを皆様の観光振興のための取組みに参加させるのは、大変重要なことです。

第二に、このような協議体は、集まって目標を具体的に設定すべきとのことです。ハワイのような場合は、二つの目標があります。一つ目は、観光客のハワイ滞在日数と費用の支出を増やすことです。そのため、情報収集を単純化させました。単純化出来たのは、ハワイに来る交通手段が航空便の外にないからで、航空会社を通じて入ってくる全ての事柄が情報データとして収集されます。人口統計学的な調査も行い、人々のライフスタイルに対する調査もしています。観光客は普通二つの部類がありますが、彼らの人口統計学的調査とライフスタイル調査をすれば、我々は、彼らが生態観光に興味があるのか、健康観光に関心があるのか直ぐ分かります。このような情報を収集するのが大切だという事を申し上げたいです。

そして、皆様、予算を執行する時、マーケティングのための費用を執行した後は、費用と比べ設定した目標が達成されたかを分析評価すべきです。マーケティングでは、民間部門がイニシアティブを取っていますが、その仕事をする民間部門に資金を支援すべきです。ホノルルの

場合、民間部門がホノルル市 当局に、マーケティングのため、2000万ドル必要だといえ、市当局はこれを支援するため、努力しています。

私は、数年間努力して、ホノルルの立法機関が民間部門にお金を一時払いで支払うようにしました。民間部門は、毎月収益を出さなければならず、収益を出した事を書類で立証しなければなりません。このような働くスタイルが今後観光産業にも導入されるべきだと思います。目標を設定し、目標を達成したか否かを把握し、目標達成のために何をすべきか確認しなければならないと思います。

私に発表の機会を与えて下さりありがとうございます。今後も、このような会議に参加出来ることを期待します。ありがとうございました。

□ 座長

ありがとうございます。民間の立場で話して下さいました。今後は、民間の参加も検討することになります。

では、第2-B分科会の結果を報告させていただきます。全体会議で発表する内容ですので、よくお聞き下さい。

第2-B分科会では、観光産業の育成方法を主題に大連、ホノルル、北九州、クアラルンプール、大分、ウルムチ、福岡等の7都市が参加しました。

各都市の発表の骨子は、次のようになっています。

大連市は、観光産業の発展のため、都市の持続可能な発展を重視し、「最大よりは最善」という理念の下に都市計画の整備を通じて土地の最適利用と都市の特色に合った都市建設を推進し、緑を増やし、広場を整備し、廃棄ガスと騒音対策等を強化し、大連アカシア祭り、大連国際ファッション祝祭等の観光イベントを始め、様々な観光プロジェクトを推進しています。

ホノルル市は、ワイキキ再活性化のため、魅力的なカダカウワ通りの整備、観光客安全対策、税制優遇措置を活用した民間部門の商業建築物の改造と新築等、市と州、そして、民間部門が様々な観光振興策を推進しています。また、地域民主主義によって整っていく施設整備が観光客にとっても新しい魅力になり、映画やTV等の娯楽産業を通じて観光弘報を行い、アジア・太平洋地域の中心に位置した地理的な条件を活かしたコンベンション産業を積極的に育成し、祝祭都市として多様な民族的、文化的イベントを準備しています。

北九州市は、企業の遊休地を活用して活用して建設された世界初の宇宙テーマパーク、スペースワールドと歴史的な建造物を活用した門司港メトロ地区 開発が大きな成果を得ました。環境産業を初めとした技術観光資源を多く持つ北九州の特徴を活かした体験・学習型産業観光を創出し、来年、2001年には北九州JAPAN EXPOを開催します。また、広域的提携による観光客の

誘致、観光ルートの設定、特に黄海圏の観光増進を推進しています。

クアラルンプール市は、比較的最近観光振興対策作りに着手し、最近観光客が増加し、クアラルンプール市の持つ特徴と観光資源を活用し、各種のコンベンション誘致、スポーツ大会開催、多様な文化や遺跡を活かした文化観光等三つの分野で観光資源開発を推進しています。

大分市は、猿が沢山いる高崎山と日本有数の別大毎日マラソンが開催された別府湾等、大分市の持つ自然を活用した観光をやっており、自然と調和をなした観光の例として2002年に大分市で開催されるワールドカップ・サッカー大会の競技場に接したスポーツ公園や美術館等を整備しています。また、一村一品運動を生かして、食べ物を通じた観光振興も推進しています。

ウルムチ市は、中央政府の積極的な支援の下で観光産業を進行し、ゴールデン・ツアー・ルートの開発を行い、砂漠の景観、雪の山やオアシス、そしてシルクロード文化遺跡と建築物を三大観光資源としています。また、ウルムチ市と周辺地域が連帯して、域内観光産業開発を行っています。観光産業開発において重視している事は、観光道路の建設、観光施設の整備、ショッピングセンター、海外投資誘致、観光ポイントや観光商品の開発、観光広告の強化等を戦略的に推進しています。

最後に福岡市は、遺跡、伝統芸術等の歴史と伝統文化を生かした観光振興を図ること以外に、魅力的な都市型施設の整備、国際的なコンベンション、スポーツ大会等の誘致、特にアジア・太平洋地域との交流を重視したアジアマンス、美術館、アジア・太平洋子供大会等の事業を推進しています。また、交流の接点としての福岡の役割を生かすため、空港や港の整備を図っています。引いて、九州の各都市が提携し、一体化された観光の推進を強調し、現在、釜山広域市と共同で観光説明会、パンフレットの共同製作等を行っています。このような観光振興事業の成果を基に参加地域の拡大を図る計画です。

以上は、各都市の事例発表でした。

各都市の事例発表の主な内容をまとめてみると、第一に、観光は都市の発達に大変重要な課題だという認識、第二に、各都市は自然、歴史、文化等各々の都市の個性を活かしながら観光都市として開発しているということ、第三に、観光客にとって魅力的な都市にするため、国際的コンベンション、スポーツ大会、お祭り等様々なイベントを準備しているということ、第四に、各都市は、地域内のみでなく、広域的な地域で連帯し観光振興を図っているということ、最後に自然環境も十分に配慮しながら観光開発を推進する必要があるということ等が共通して言えます。今後、海外の都市との提携を通じて観光ルートを開発し、観光情報の共通配布、観光客誘致のため共同対策を講じるべきだという意見もありました。

自由討論では、次のような意見もありました。観光先進都市と観光を認識しはじめた都市は、状況が違います。観光振興を始めてまもない都市で先進都市のモデルは大変参考になると

いう意見があります。観光施設や多様な観光商品を開発するためには、人材の育成や情報の交換が大切で、このため、アジア・太平洋都市サミットでは、インターネットのウェブサイトを開発しようという提案もありました。

各都市が行政システムを越えて提携し、広域的なプロジェクトを推進すべきという意見と各都市の行政当局だけでなく観光業界等、民間部門とのコミュニケーションを活性化させるべきという意見もありました。以上が自由討論から出た意見です。

これをもちまして、第2-B分科会の会議結果報告を終えさせていただきます。